

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり
第2回 地域づくり部会

議事要旨

あいさつ

出雲河川事務所 今年もガン類やハクチョウ類が多く飛来し、また、コウノトリも斐伊川水系で相次いで確認されている。前回から少し間が空いてしまったが、この場で委員の皆さまより、さまざまなご意見・ご示唆をいただきたい。

異動に伴う新たな委員の紹介

委員 これまでも地域振興局に勤務してきた経験があり、境港と米子の支店長も務めた経験がある。圏域の活性化について、少しでも貢献できればと考える。

議事

(1) 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会 規約の変更等について

(「資料1：斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会 規約の変更等について」の説明)

部会長 この規約の変更は、地域づくり部会の役割について明確にしたという認識で問題ないか。

事務局 その通り。

(2) 大型水鳥類に関する最近の動向について (報告)

(「資料2：大型水鳥類に関する最近の動向について (報告)」の説明)

委員 コウノトリについて、ゆとりの里下古志ファームの方にも9月20日ごろに2羽飛来したのを、うちの者が確認している。

委員 コウノトリについて、昨年は10月22日に2羽、宇賀荘の谷津田の方に来ている。同一個体と思われるものが切川の水田にも来ていた。

(3) 大型水鳥類を活用した観光振興について

（「資料 3：大型水鳥類を活用した観光振興について」の説明）

部会長 各方面にリサーチをした結果を上手くとりまとめていると思う。

委員 昨年度のモニターツアーに参加したが、本当に感動する光景だった。

まだ観光資源としては成熟していないが、素晴らしいということは誰もが認めることだと思うが、少し知名度が足りない。出雲に来られるお客様に水鳥のことをきいても、ほぼ「知らない」という答えが返ってくる。

PR を効果的に進める上で、この協議会の愛称のようなものが欲しい。それを取っ掛かりとして観光客に紹介できる。

「有名になったら考える」というのはおかしい。有名になるよう一緒に作りあげていく、というのが地方のまちづくりの基本。

部会長 野鳥の専門家からも、松江の中心市街地から車で 10 分ほどのところにハクチョウが多く飛来しているというのは奇跡に近いという発言があった。我々はこうした財産を認識し、どのように地域振興に活かしていくのかということを考えていかなければいけない。

委員 境港より山陰に来られる外国人の方は買い物だけでなく、散策などにも時間を費やす。大型水鳥類の観察できるポイント等を上手く業者に持ちかけてはどうか。現在香港からの船が入ってきているが、彼らは自然に対する関心が高い。各地の地域性を出した PR が重要かと思う、それにあたってはちゃんとしたコースを組む、であるとか、各ポイントで何が見られる、何を期待できるということを提案してはどうか。

提案先は旅行会社ではなくクルーズ会社、クルーズ船の会社が旅行業者の役割を果たしているとの情報がある。

委員 宇賀荘の方では、10 ヘクタールの水を張った田んぼをハクチョウ類が埒として使っている。旅行業の方に PR していただけるのであれば、安来で一泊していただき、朝と夕方にコハクチョウが田んぼから飛び立つ、または帰ってくる所が見どころか考える。

コメについては、昨年度より新たに「グリーンコープとっとり」と道の駅で「どじょう米」を扱っていただくこととした。

委員 うちではコメの高付加価値化と環境保全を目的とした、湖北はくちょう米という無農薬のお米を作っている。今年は悪いことに、11 月に広告用の飛行船が松江の空を飛んだ関係で、ハクチョウが驚いて逃げてしまった。最近になって戻ってきたようだが、エンジン音に敏感になっているようだ。

また、写真については、うちの水田でも朝と夕方、大山をバックにハクチョウの飛び立

ちや着水を撮影できる。土日を中心によくカメラマンの方が撮影に来る。

委員 観光振興について、どれだけ、観光事業の効果を期待しているかが問題。大きな観光効果を期待しているのであれば、この部会が主体となって事業を動かしていくのかどうかという整理も必要になってくる。

観光の見せ方について、オールシーズン狙っているのか特定のシーズンなのか、ターゲットも、女性なのか子どもなのかでも、見せ方、情報発信先や手法、既存の観光資源との連携の仕方が違うと思う。

圏域の中で水鳥を目玉として観光客を呼ぼうとするよりも、この地域にある優れたポテンシャルを活用しながら副次的に見せていく、という考え方の方がよいのではないか。

最近のトレンドとして、米子市はサイクリング観光を推進している。島根の方も随分力を入れて、サイクリングに力を入れようとしている。

委員

観光地としてのポテンシャル評価について、先行している他の大型水鳥類が観光資源となっている観光地との比較を、飛来する水鳥の個体数を元にできないか。

地域特性についてだが、斐伊川水系はかなり広域なので、地域の特性を発信する拠点は欲しいところ。

資料 2 に書かれていることは誰が主体となって進めていくのかという所が気になる。誰が旗振り役となって事業を進めていくのか。

部会長 地域づくり部会という検討組織の中で検討を進め、その中の検討結果をもとに、意見が一致したところは一体となって進めていければ良いが、誰が先頭に立つか、という点は回答が難しいのではないか。国や自治体、それに五市長会に期待する所はあるが、民間レベルで進めた方が早い点もあり、一長一短かと考える。

事務局 狙いとするシーズンについては、冬鳥が多く飛来し、一方で観光客数が落ち込む冬がメインになるかと考える。

ポテンシャルの評価については、定量的な評価結果を現在持ち合わせていないが、個人的にはコウノトリを始めとする多様な大型水鳥類が多く飛来していることから優れたポテンシャルを有している印象。なんとかこれをデータで根拠づけできないか検討しているところ。

観光振興の主体については、観光協会と一緒に、土産やお菓子等も含め、民も巻き込んだ形で、国交省が旗振り役で進めていくことを想定している。効果の程度やターゲットについてははっきりと定まっていない。ターゲットを絞るべきなのか、絞るのならばどのようにして絞るのか、委員より意見をいただければありがたい。

委員 これだけの素晴らしい自然・地域について、地元に住む我々が十分認識していないというのが一番の問題かと思う。是非とも観光の前に地域の資源を、将来世代に残していくためにも、子どもたちに広く知ってもらうことが大事ではないかと考える。

委員 子どもたちへの普及という件については、私も同意見。山陰合同銀行では尚風館という私塾をひらいており、論語や島根の神話などを教えている。

ターゲットとなるシーズンは冬に限定せず、もう少し広がりがあってもよい。

観光振興とは別に、子どもたちを対象としてこの大型水鳥類を活かしたカリキュラム、例えば夏休みの宿題などあっても良いのかもしれない。

ただ、最初から欲張ってはいけないと思う。確実に、ニーズに合ったものを準備していくことが大事。

(4) 大型水鳥類を活かしたブランド米の展開について

(「資料4：大型水鳥類を活かしたブランド米の展開について」の説明)

部会長 昨年度の協議会の中でも、地域づくり、特に農業振興に関して、何か形になるようなものを作らなければならないという意見が出ていた。こちらについて、農業者のご意見を伺いたい。

委員 この資料に示されていることは我々が望む所である。

過去に豊岡、JA たじまには視察に行っており、この取組には感銘を受けた。JA たじまの方では、JAS 有機の認証を取得していなくても、無農薬等の要件を満たしていればコウノトリ育む農法で作られたお米として高価格で買い取っている。

斐伊川水系においても、この資料に示されている通り、JA しまねが圏域で統一された農法で生産された農産物を、同じブランドとして、同じ対価で取り扱っていただくことを期待している。

委員 私も同じ思いを持っているところ。

私どもも、先日、近隣の農業法人と、そうしたブランド化に向けた話し合いをしているところ。生産量ももう少し増やしていきたいし、契約件数も増やしていかなければならないと思っている。

委員 既に環境保全型の農業を取り組まれていて、先行して独自に高付加価値のついたブランド米の販売を手がけている両委員より、新たな統一ブランドについて積極的なコメントをいただいたことはありがたいと思う。

有機 JAS であるとか、無農薬であるといった看板は認知が進み、「当たり前」になりつつある。それだけでは売りになりづらくなっているように思う。豊岡のコウノトリ育むお米は、ストーリーが売り。斐伊川水系でも、豊岡に負けない、この地域のストーリー作りはできると思っている。

部会長 農業の方について、こういった提案を実現することができるのなら、観光との相乗効果も期待できると考える。

委員 昨年度から海藻農法の普及を更に進めているところ。仁多米の中でも海藻農法の導入が始まっている。食味も上々で、お米マイスターから高い評価を得ている。

また、海藻農法について日本農業遺産に登録してはどうかという話を農林水産省よりいただいた。今年の登録は見送ったが、登録に向けて調査と情報の収集・整理を継続している。日本農業遺産への登録ができれば、海藻農法の農産物に「日本農業遺産」の看板が全て立つようになるし、将来的には世界農業遺産の登録も視野に入れていくことができる。

海藻農法の取組は 5 市よりも周辺の中山間地域の方で広まっているのが現状だが、次年度より新たに、出雲平野でも 10 ヘクタールの海藻農法によるコメの作付けを始められる見通し。先行して出雲平野で作付けを行っている田んぼでは、比較的食味の良いコメがとれている。

来年もこうした、普及に関する報告ができるよう頑張りたい。

部会長 ここで皆様からいただいたご意見・ご提案を含めて、農法等について検討を続けていきたい。その上で、圏域で一体となった農業振興を進めることができればありがたいと考える。

事務局から頂いたこの提案については、地域づくり部会の総意として、問題ないと思う。

観光と農業の分野で成果を出していきたい。より具体的なアクションを起こしていくことができればと考えている。

そのために、今後とも委員の皆さまにはご協力いただきたいと思っている。

その他

事務局 本日の部会で出た課題や提案は、事務局で整理して、今年度中に実施予定の第 4 回協議会で報告する。

次回の「地域づくり部会」の開催については、各委員と調整しながら進める。

閉会